

- 問い合わせ 中央公民館  
TEL 32-1132 FAX 37-1153
- 編集 公民館報編集委員会
- 印刷 株式会社 プラルト

公民館報

発行  
2022  
1/30

まつもと



シリーズ 受け継ぎ伝える松本のたから 59

## 古城を彩る レーザーマッピング

光と音の演出で冬の松本城がきわだつ  
2月末までの幻想的なきらめき

# 公民館研究集会

## こまねんど

### 松本の公民館と地域づくり

松本市には、戦後の復興期から、公民館活動、社会教育活動として、住民自ら話し合いと学習をとおして、福祉や産業など幅広い分野で活動を起こし、地域と暮らしを創ってきた歴史があります。また、公民館職員をはじめ市職員がこの住民の主体的な学びと活動を支え、またその活動の輪に加わり住民とともに地域づくりに取り組んできました。

### 公民館研究集会の歴史

住民と職員が地域や暮らしと向き合い、まちを創ってきた歴史を経て、昭和61年に第1回公民館研究集会が開催されました。「松本市の公民館の現状と課題」と題し、助言者に名古屋大学教育学部新海英行助教授を招いたパ



ネルデイス  
カッションで  
した。  
第2回、第  
1部は実践発

表「学習・文化・ボランティアのまちづくり」と題し、手塚英男さんが講演、第2部は分科会方式で、公民館5部門委員会の現況など活発な討論を行いました。

### 住民が主役に

平成3年に松本で開催された社会教育研究全国集会をきっかけに住民が運営に参加し、住民と職員が共同でつくる集会に変わりました。また平成28年度から、地域づくり市民活動研究集会と合同で「まちづくりの集い」として開催しています。

毎回テーマを決め、午前中に基調講演を行い、午後の分科会では社会や地域、身近な暮らしの事例を取り上げています。

成果は毎年記録集にまとめ、各地区公民館に設置されています。

研究集会と聞くと難しく感じますが、内容は皆さんの身近な事を話し合っています。午前また午後のみでも結構です。ぜひご参加ください。

### 視点

## ④若者の声を結ぶ 信州大学 「わかしら」

### 届けたい若者の声

「松本には、子育て世代や高齢者世代には支援や施策があるのに、若者を対象とした支援や施策が少ない」と感じられていました。

松本若者会議2020で挙げられた課題です。これを解決するため、信大生を中心に「わかしら」が発足しました。「若者の生感を調べる」が名前の由来です。若者の声を聞くことができる仕組み作りに取り組んでいます。昨年4月には、「大学生の一日を知るアンケート」や「大学生のスマホ事情を知るアンケート」を行いました。昨年7月に実施し



「焚き火を( )む」を企画運営したメンバー3人

た「松本市役所新規採用者向けアンケート」の結果から、若者はアウトドアに興味があるという仮説を立てました。そこでアウトドアを通して松本市に興味を持ってもらおうと生まれたイベントが、昨年10月に開催された「焚き火を( )む」です。

### 溢れ出る本音

秋晴れのなか、薄川緑地に大学生10人が集まりました。このイベントの目的は、若者の松本市に対する興味関心を高め、若者の意見を集めることです。イベントの前半では設定されたコースをサイクリングし、後半は少人数で焚き火を囲み松本市の魅力や交通問題など自由に語り合いました。

「観光地・自然・生活が共存している。お城や公園、田んぼ、温泉地の景色の移り変わりが楽しく、松本の魅力に気づいた」「狭い道が多く、交通量も多いため自転車走りづらいところもあった」焚き火を囲んだ若者の声です。

焚き火を囲むとリラックスして、話しやすい環境ができあがります。メンバーの吉山さんは「不満を持つことがあっても、どう言えばよいか分からない人が多い。小さなこと

も気楽に話せる環境づくりが大切」と話します。本音で語り合うこのイベントは、同年代の交流の中で新たなつながりや学びの機会を参加者にもたらしました。



焚き火効果でリラックスして語り合う

### 届け！若者の声

地域課題は誰もが持っているものです。そして心のうちには、ぼんやりと抱えている声を話し合える場が必要とされています。「わかしら」は若者の声を繋ぐハブのような存在です。一人の小さな声でも、何十人も何百人も集まれば大きな力を持ちます。活動は後輩たちに引き継がれ「焚き火を( )む」も次回開催が期待されています。不満や意見を、素直に楽しく言える場が続いていくことが、若者が地域参加するきっかけになり得るのです。

# 未来へつなぐ私たちのまちづくりの集い

第37回公民館研究集会 令和3年度地域づくり市民活動研究集会

●期日 **2月20日(日)** ●会場 **松本市中央公民館(Mウイング)ほか**

日程	9:00 受付	9:30~9:45 開会式	9:50~11:50 基調講演	11:50~13:00 休憩・昼食	13:00~16:30 分科会
----	------------	------------------	--------------------	----------------------	--------------------

## 内容

■基調講演・パネルディスカッション

### 「多様性のなかの『学びと自治』」

講師・コーディネーター

松本大学総合経営学部  
松田 武雄 教授



パネリスト 寿台ハッピー食堂 プロジェクトコーディネーター 設楽 秀子 氏  
なかやま体験フェスタ 中山公民館長 鈴木 幹夫 氏  
多文化共生実践者 NPO法人中信多文化共生ネットワーク 野村 ロセルダ 氏

分科会	テーマ	会場
第1分科会	いっしょに語ろう!~地域で共に輝く若者と住民たち~	市民活動サポートセンター
第2分科会	子ども~子どものために、それぞれができること~	中央公民館
第3分科会	α×地縁組織=多様な連携で生み出す新しい風	松南地区公民館 (なんなんひろば)
第4分科会	多様な地域学習が未来をつくる。~自分の地域のコト知っていますか~	松南地区公民館 (なんなんひろば)
第5分科会	「誰もが住みよいまちづくり」ってなんだろう?	大手公民館
第6分科会	多様性の中の学びと自治 ~地域の担い手の育ちと違いを認め合う多様性のある地域づくり~	中央公民館

※4施設6会場をオンラインでつなぎ、開催します。 ※基調講演・パネルディスカッションのみ参加することも可能です。  
※新型コロナウイルス感染拡大状況により、開催内容を変更、または中止する場合があります。

【主催】松本市・松本市教育委員会・松本市地域づくり研究連絡会

【主管】未来へつなぐ私たちのまちづくりの集い実行委員会

詳細・申込はこちら▶



**参加申込方法** 2月15日(火)までに、必要事項(氏名/住所/電話番号/参加を希望する分科会を第2希望まで/保育の有無/手話要約筆記)を専用フォーム(ながの電子申請サービス)または最寄りの地区公民館・集会事務局(中央公民館)へお申し込みください。

**事務局** 松本市教育委員会 生涯学習課・中央公民館(Mウイング南棟2階)  
〒390-0811 松本市中央1丁目18番1号 電話 0263-32-1132/FAX 0263-37-1153  
E-mail:gakushu@city.matsumoto.lg.jp

## おこひる

平成27年9月から福祉ひろばで、月2回スポーツボイストレーニングを続けています。スポーツボイスとは、<sup>みせてついでに</sup>トレーニンングとは、歌手の東哲一郎さんが、海外のミュージシャンから習得したトレーニンング法を、日本人向けにアレンジして開発した「発音を良くし、声を響かせるためのあご、舌、唇のストレッチ」「<sup>かたむね</sup>膈下丹田に力を入れ、複式呼吸で発声」などを、音楽に乗せて、体を動かしながら行う方法▼平均年齢73歳のグループ10人前後で活動を続けている。当初は30人弱で女性もいたが、年々減少しているのが課題である。トレーニンングは、東先生の映像を見ながら40分運動し、20分歌を歌う。楽しみは、音文ホールと地区の文化祭で、歌を発表することである。持ち歌も年々増え、オーストレイニンングを続け、仲間とふれあうことと心と体の健康が保たれていると思う。今日この頃である。コロナで、音文ホールでの発表を自粛してきて残念だが、これからも続けていきたい。



山辺パノラマロード沿いのはなもも

### 山深い入山辺地区

松本市東部に位置し、薄川沿岸の八竜橋から傾斜地を東側に登った地域で、標高650mから1320mの地区です。明治8年、1月23日に5ヶ村が合併して入山辺村が成立。昭和29年8月1日に松本市への合併・編入となりました。現在は13町会で、世帯数849世帯、1864人が生活しています。

三方を山に囲まれ、95%が山林原野ですが、明治7年頃

## 歴史探訪 探ろう松本26

### 入山辺地区

今でも様々な行事や風習、祭りが残る入山辺地区

には、傾斜地を利用したブドウ栽培が始められ「山辺ブドウ」としてブランドになっています。

明治32年には、薄川を利用した第一水力発電所が、松本電燈株式会社により開業され、市内に初めて明かりが灯りました。県内一古い発電所です。電氣事業の走りとして四柱神社境内に記念碑があります。

屏温泉は標高も高く、道中では松本平を望む絶景が楽しめます。松本の奥座敷として関東・関西方面から多くの観光客が訪れています。

### 歴史と文化

奈良時代に、入山辺の語源となったと思われる山家(やまむべ)と、奈良の都との交流があったことを示す「木簡」が確認されています。国府が筑摩郡に移転されたこともあり、山家集落は政治、交通、軍勢にとっても重要な拠点になりました。

室町から戦国時代にかけては、この地域に多くの山城が

作られ、現在でも土塁・石積み、空堀などの遺構を見ることが出来ます。

大和合、宮原、橋倉の各神社では、卯と酉の年(諏訪大社より一年遅れ)に盛大に御柱が行われます。

また、この地区には松本市重要無形民俗文化財に指定されている「こと八日」があります。毎年2月8日に、無病息災を願い、貧乏神にみたてた「わら馬」や「ムカデ」をつくり、念仏を唱えて焼きます。



長いムカデを町内引き回す

### これからの入山辺

地域活動としては「こんな山辺にするじゃん会」を発足させ、はなももの植樹、地域のリーダーの育成、諸問題などを解決しています。空家対策にも力を入れ、住みやすい環境を目指しこれからも活動していきます。

### 松本平の野鳥たち

ルリビタキ (撮影: 2021. 12. 16 松本市)

全長14.5cm。オスは青い体が美しく、メスは尾だけわずかに青色。オスもメスもくるっとした眼も魅力的。標高1,500m以上の針葉樹林で繁殖し、夏山登山者にはおなじみの青い小鳥。アルプス公園では運が良ければ、他の青い小鳥のオオルリ(夏)、コルリ(冬)の姿や囀りを確認できる。

### まつもと散歩

穏やかな日々が戻りますように  
誰もがそう願う新しい年のはじめ  
笑顔を結ぶ、しあわせのヒトコマ

(撮影: 2022.1.1 四柱神社)